

低身長について

■低身長とは、どのような状態（病気）ですか？

同じ学年のこどもたちと比べて身長が著しく低いか、成長の速度が著しく遅い状態をいいます。

■どのような原因がありますか？

低身長の原因はさまざまです。

1. 成長ホルモン分泌不全性低身長
2. 甲状腺機能低下症、思春期早発症・思春期遅発症
3. 先天性異常の症候群（ターナー症候群、ヌーナン症候群など）
4. 骨系統疾患（軟骨異栄養症など）
5. 出生時に低身長のまま追いつき現症がない状態（SGA 性低身長）
6. 腎臓の病気など
7. 脳下垂体の腫瘍など

しかし、低身長の多く場合、上記の異常のいずれもない（多くが家族性）低身長です。

■検査にはどんなものがありますか？

1. 成長曲線の作成

検査の前に最も大切なことは、成長の推移（成長曲線）をグラフにすることです。成長曲線の作成には、(1) 母子手帳、(2) 幼稚園・小学校の身長・体重測定記録が重要ですので、受診時に持参していただくと大変参考になります。この曲線をもとに、お子さんの成長障害の開始時期や成長速度の低下を判断して、原因の追究に役立てます。

2. 血液検査

成長に関連するホルモン、ミネラルなどについて精査します。

3. 骨の X 線写真

手の骨の X 線写真を撮影して、骨の年齢を調べます。手を広げた長さ（アームスパン）と身長のバランスが著しく違う場合には、その他の骨も X 線写真も撮影します。

4. 成長ホルモン分泌負荷試験

上記の 1, 2, 3 の基本的な検査ののちに、さらに詳しく調べる必要がある場合に、成長ホルモン分泌負荷試験を行います。アルギニン、インスリンなどの刺激薬を用いて、脳下垂体からの成長ホルモン分泌をうながし、2 時間にわたって血液中の成長ホルモンの濃度を調べます。痛みは、血管に留置する管を入れる最初の 1 回ののみです。

5. 脳下垂体の形の異常がないかを MRI 検査で調べます。

■治療はどんなものですか？

成長ホルモンの分泌不足と診断された場合には、成長ホルモンの補充療法をします。成長ホルモン分泌不全性低身長の治療の場合には、毎日注射する製剤と週に1回注射する製剤の2パターンがあり、どちらも選択できます。

■当院での成長ホルモン治療の経験数は？

現在治療中の子どもさんも含め80人以上の治療経験があります。

■最後に

低身長を呈する子どもさんなかに、上に述べましたいくつかの治療対象の原因が見つかることがあります。このような場合には治療を受ければ、身長を伸ばすことができます。

まずは、ご自宅でお子さんの成長曲線を作成することをお勧めします。簡単なものは母子手帳にも含まれていますが、生年月別での標準身長曲線グラフの作成することが大変重要です。 ≥ 2.0 SD 以下で標準範囲を下回っている場合や、ある時点から身長の伸びが鈍くなっている場合には、ご相談ください。